平成 28 年 7 月 29 日（金）午後 2 時 30 分から
於・健康福祉事務センター2 階　第 3・4 会議室

第８回「小平市行財政再構築推進委員会」議事要録

出席者
【委員】吉田委員長、峯岸副委員長、大杉委員、川口委員、小島委員、長島委員
【市側】企画政策部長、行政経営課長、行政経営課長補佐 2 名、行政経営課施設マネジメント担当係長、行政経営課統計担当係長、政策課長、政策課長補佐、財政課長、財政課長補佐、広報広聴課長、広報広聴課長補佐

１　開会

本日の進行について説明・確認

２　小平市第３次改革推進プログラムの策定について

（峯岸委員）

最初の趣旨のところで、財政の再構築という部分について、問題意識が薄い気がする。

先日も新聞の中で交付税の交付団体の拡大の話が出ていて、全般的に景気回復という形でいろいろなところが不交付団体になっていくと思うが、財政の自律性という面では、まだ小平市はそこまで行きついていないと思うので、その辺に対する行財政の中の財政面の再構築ということの必要性を表現として、入れていく必要がある。

また、市民も巻き込んで、行政のサービスを担っていくという方向を出すべきではないかという意味もあって、引き続き厳しくなる財政状況と謳われてくるわけであるから、そのあたりを表現の中に入れていくべきである。

（事務局）

13 ページに記載しています。

最初の趣旨は、当初のプランができた 10 年前から現在までのプランの概要と今後も取り組まなければいけないという記載になっています。

（委員長）

私は、後半でたくさん同じようなことが出てくるから、位置づけと対象期間だけ記載して、この趣旨のところはいらないと指摘した。

2025 年に介護医療費用が急増し財政需要が膨大になり、介護士も 25 万人必要になってくる。

東京都の財政としても非常に大変だと発表がされていて、要するに大都市圏は共通して団塊の世代が　人口の大きな塊となり、一気に高齢化に参入するので、そのために膨大な財政需要が生まれてくる。加えて、公共施設の維持管理、更新費、老朽化による、これが大きな財源が必要になってくる。

いずれにしろ、峯岸委員の趣旨は後半でかなり入っている気がします。

（峯岸委員）

わかりました。

（長島委員）

13 ページのこの「強まる財政再構築の要請」というところが、具体的に何をやることとのリンクがされていない。

（委員長）

その後の方針の内容で記載していますので、あわせて議論しなければならない。

（長島委員）

その方針の内容も含めて我々の議論の中で、もう少し踏み込んで、財政面で抜本的な改革を進めると言う提言をしていかなければいけない感じがしております。

（事務局）

今日は、前段の文章の確認をお願いするところです。

後段の方針 1 の内容の市民協働については、財政面においてはそれほど取り上げておりませんが、方針 3 の PDCA サイクルの中に事務事業の見直しの項目であるとか、補助金の再構築については、財政面でかなり重要だと思っています。

また、次回の委員会で検討をお願いする予定の方針 4 の財政基盤の強化であるとか、その後の方針 5 の執行体制の再構築になってくると、今までと同じような形で取り組むのではかなり厳しいと思っております。

（委員長）

私の大まかなイメージとしては、小平市の財政が持続可能性を維持するためのルールを数値目標で設定して進めないといけない。

例えば経常収支比率が、これまで何回も話題になっていて、従来は 80％というのが割合でしたが、最近の状況を見ているとやはり高齢化の急速な進展というものが背景になって、構造的に扶助費等が増加せざるを得ないという面があり、80％の数字は設定できないと思っている。

資料で多摩地域の経常収支比率の平均は 90.7％で、小平市は 93.9％ですから、せめて平均あるいは 89％でもいいから、80％台という厳しめの目標設定をしていくような形にすれば、財政をどう見直したらいいかという論点になる。

（川口委員）
　財政基盤の強化とかを先に議論してから、目標を定めて、その上で各事業がどう進めていく話をしないと議論が逆だと私は思う。

（事務局）
　今日は、前段のこの文章についてと方針 1～3 の内容確認をしていただくのですが、この方針の内容については、今日で方針が確定するというわけではないので、また来月は方針 4、再来月は方針 5 といったところで議論をしていただきたいと思います。

（峯岸委員）
　私も川口委員の方向だと思いますが、なかなかそれだと全体が進みにくいという状況もわかりました。

（委員長）
　これでまず大枠だけ大まかに決めておくということになります。
　事務局が言うように、後で再度全体を議論するという機会を我々としては持てるわけですから、一応その大枠は確認して、最終的にその個々を議論して大枠を修正する必要があるということであれば、またフィードバックして修正を図るという形にしたいと思います。

（川口委員）
　市民にも当然開示するわけですから、その中で前から気になっているのですが、5 ページの表、例えばプログラムの進捗状況の話、あと 9 ページの数値目標の達成状況について、市民の方が御覧になると、別に何も問題がないのではないかと思われる恐れがあります。

（委員長）
　6 ページ以降に予定より遅れている取り組みという項目として記載しているので、そこで市民の方は把握されるのではないかと思います。
　また、後半の部分を見れば、どういう成果があって、取り組みが遅れているのかということを知ることができます。

（川口委員）
　そこは、私も前回申し上げましたが、非常に詳しく記載されているのは評価できます。
　ただ市民の方は全部読まないと思いますから、要約版が欲しいです。

（委員長）
　今の意見は私も賛成です。
　事務局に要約版の作成を依頼します。

（大杉委員）

全体的に財政面の厳しさが足りない。

１ページの趣旨に、行政のみでなく NPO、ボランティア団体、自治会、民間業者と、小平でつながっている人たちのことを並べていますが、これは 22 年度までのことを書いてあるから、このままの記載でいいのかと思います。

強まる財政再構築の要請のところの少子高齢化とか後期高齢者とかの記載は、最初は記載されていませんでしたから、これでいいと思います。

13 ページの一番上の求められる背景の後に、市は思い切った歳出の見直しや歳入拡充と記載されていますが、ここまで読み込まないと出てこないので、これは一番初めに記載されればいいと思う。

8 ページのうまくいっている国分寺市との広域連携ですが、もう一歩踏み込んで、国分寺市や近隣市との、例えば連携が今後は絶対必要であるとかの記載が欲しいし、国分寺市とだけの成功例の掲載は違和感があります。

また、趣旨の公共サービスの記載に大学との協働は必要ではないかという点と 13 ページに掲載した概要版をまとめるのが大変でも出してほしい。

（委員長）

文脈から言えばここで市民、NPO、自治会、民間事業者と言っていますが、民間事業者を民間企業に置き換えた方がいいのではないか。

（大杉委員）

この文脈に大学は入ってこないのか。

また、並び方では NPO は後ろではないかと思う。

（事務局）

プログラムの中では大学との連携というところをいま謳って具体的にやっていますが、ここでの担い手というところまで掲げられるレベルに来ているかどうかという所は、検討の余地があるのではないかと考えております。

（長島委員）

19 ページの概念図は古いので変更はできないのか。

（事務局）

現在の公共サービスのあり方についてもこの概念図で説明できると考えている。

（長島委員）

概念図だけ変えられないのはあり得ない。

（委員長）

16 ページに、「単に流行に流されるのではなく、行財政再構築に必要な基本枠組みを堅持し、それを洗練させ、進化させていくことが求められます。」という言葉が記載されておりますので、あまり変えない方が私はいいと思います。

財政の見直しは、枠組みの中で進んできていますから、これを洗練進化させて、変えていくということがあり得ると思いますが、少なくとも再構築プランをやっているときには、もう古いからとかそういう見方でなくて、大事なものはきちっと堅持した方がいいと私は判断しています。

（長島委員）

違和感が結構あります。

やはり、今の背景を踏まえた財政のことや公共サービスのあり方を考えた図にすべきだと思います。

（事務局）

概念図だと難しいものがあります。

ここは公共サービスの在り方を一つにまとめた書式になっています。

求められる背景を図式するのは難しく、前段の 13 ページに文章で記載しています。

（長島委員）

ただ、先ほど言われていましたけど、全部読まない人がいて、図のところと絵のところだけ読んで問題なく物事が進んでいるように思われることを危惧します。

だからこの概念図はせめて 19 年度の図だとか注記すべきであると思います。

（事務局）

全体の図式化は、先ほど概要版の話を頂いておりますので、その中で整理していきたいと思っております。

（小島委員）

結局、抽象的すぎてわからない。だから概念もいい加減だから図もはっきりしないわけです。

概念の絞り込みができていないからです。

私が言いたいのは、結局、委員の皆さんが困惑しているように、書いてあることが一般的で小平市の姿もまったく見えてこない。

だから、それを図にしたところで、新しい公共空間がこれから出てくるというイメージができないと根本がそこにあると私は思う。

計画書に書きにくいことはあると思いますが、ぜひその点を加味して、小平の独自色を出して頂きたいと思います。

（委員長）
　できるだけ小平らしさ、例えば、さっきの大学を入れるとか、小平らしさに着目することが新しい可能性を出してくるわけですから、是非今のご意見を伺ってお考えいただきたいと思います。

（川口委員）
　改革推進プログラムについてですが、行政評価と事業仕分けの推進担当課の違いを教えて下さい。
　調査票はシンプルになっているのは結構ですが、公会計的な財政的な数値を記載してほしい。

（事務局）
　行政評価を担当している政策課については、長期総合計画をはじめ、毎年の事業の実行プログラムの検討・調整をしており、事業仕分けを担当している行政経営課については、定員管理や行革の関係をやっているところであります。

（川口委員）
　行政評価は今やっている評価とは全く別の評価体系があるっていうことですか。
　私たちがやっているのと分ける必要があるのですか。

（事務局）
　行革本部の中でも行政評価の実施について、新しい実際に作られたビジョンを活用するような方法を考えていかないといけないという指摘を受けています。

（企画政策部長）
　行政評価については事務事業すべてについて、基本的には目標値を設定する中で、毎年毎年事業を展開していって、その目標の達成に向けていくところです。
　行財政再構築は一つ一つの事務事業についてサイクルを回していくというよりは、取り組みをプログラム化し、中期的な施策の取組方針を達成するための財源を産み出すなどの効率性を高めるものになります。

（川口委員）
　調査票で一番心配なのは金額の情報が抜けてしまっていうところであり、コスト情報はなければいけないところだと思います。

（委員長）
　その点をご検討頂きたいと私も思います。
　方針３のＰＤＣＡサイクルの下の変更点ですが、「職員の目標管理制度の推進」は終了するということですが、ますます必要になる感じが私はしています。むしろ今までの目標管理が形だけの目標管理

をやっていると思います。

たとえばアメリカの目標管理だと、四半期ごとに達成すべき数値目標を設定して、それに必要な財源と人員を担当者に配分して、四半期ごとに上司とミーティングをして、その中で問題課題があれば対応し、1年をかけて最終的に仕事の目標管理をする形になっています。それが本来的な目標管理です。

それからもう一点は方針 2 の情報共有と双方向のコミュニケーションですが、ここに出てくるようなものも当然あると思いますが、もう一つ考えないといけないのが、皆さんも知っているようにInternet of Thingsが急速に広がってきています。

要するにモノのインターネット化で、膨大な情報を集めて、そういう集めたビッグデータを、人工知能で解析して、新しい産業振興を目指すような方向性も少し情報の共有の双方向性で捉えていく必要があると思います。

具体的には政策の共有化で、ある自治体がやっている取り組みだと、地図情報システムを使って、地区ごとに市民意識調査をやっており、そこに暮らしている市民の意向などを把握できます。

ビッグデータだけでなくてオープンデータもシステムで整理して、市民の皆さんがホームページにアクセスしてそのページをクリックするような環境を作るのもいいと思います。

あと、事務事業の見直しも、これからは一律削減とかの従来型というような要するに痛みの分かち合いみたいなやり方はもう通らないと思います。

むしろ事業に優先順位をつけて、優先順位の低いものをスクラップして、そこで産み出した財源で事業を推進する考えでいかないと、今後はますます難しくなるだろうという感じがします。

（事務局）

その辺は必要だと思います。

行政評価の結果などを踏まえて、事業の改善というところを新たな手法でやっていかなければいけないと検討しております。

（大杉委員）

一つ気になっていたのが、方針 2 の「市民の参加のさらなる推進に係る検討」ですが、内容がわからないので、具体的にその辺を次回是非説明して下さい。

また、プレスリリースという点で、パソコンもスマホも持っていないという方に新聞やテレビというのは重要だと思います。

（事務局）

「市民の参加のさらなる推進に係る検討」は、例としてはスマートフォンによるアンケート調査だとか、時代に合った新たな市民参加の手法などを検討するものであります。

（大杉委員）

今後の改革推進プログラムにおいては、４年間の中で今年は何パーセント達成できたかみたいな数値があれば、評価もしやすいと思います。

（委員長）

個々の事業であれば可能とは思いますが、全体としてそういう図ができるのは、それほど簡単ではない感じがします。

（大杉委員）

達成率にグラフを入れてみるのはいかがですか。

（事務局）

他市の例などを参考にして検討していきます。